

令和6年度（第38回）山崎研究助成金伝達式 あいさつ

令和6年6月30日（日）

第38回山崎研究助成を受けられた皆さん、おめでとうございます。

皆さんのたゆまぬ探究心・熱い思い、そして、ひたむきに取り組もうとする姿に、まずもって敬意を表します。

また、本日、公務御多忙の中、御臨席を賜りました県教育委員会池上重弘教育長に、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

山崎自然科学教育振興会は、昨年度創立40周年を迎えました。次の50年に向け、新たな歩みを重ねてまいりますので、皆さんの御理解と御協力を引き続きお願いいたします。

さて、皆さんがこれから研究を進めるに当たり、私の今の思いを2つお話ししたいと思います。

ひとつは、「実験や観察のデータとの向き合い方」です。

以前、高校の物理の先生からこんな話を聞きました。

授業で実験を行ったとき、予想に反した実験データを得てしまった生徒が、「こんな腐ったデータでは何の役にも立たない」とつぶやいたそうです。

その物理の先生は、「予想と違った原因・理由を考えることの大切さ」を生徒にじっくりと話したとのことでした。

皆さんが、これから研究を進めていく中で、思わぬデータが得られてしまうかもしれません。しかし、予想に反したからといって無視するのではなく、なぜそのようになったのか、どこに原因があるのかなど丹念に調べ考察することによって、研究の精度が上がり、ひょっとしたら、新しい発見につながっていくのかもしれません。

一つ一つのデータを大切にし、丁寧に向き合い、データから発せられる声に耳を傾けてみてください。

二つ目は、「研究への向き合い方」です。

私は研究者ではありませんので、「研究への向き合い方」と言っても、そのことを真に深く理解することは難しいです。

しかし、かつて職場の先輩から言われた「今の仕事を楽しめ」という言葉を援用するならば、研究している今を、研究の過程を、プロセスを楽しみ、大事にしようということではないかと思っています。

研究の成果を求めることは大切で必要なことではありますが、特に皆さんには、研究の過程において、様々なことに挑戦し、思考し、思い悩み葛藤することを、むしろ積極的に楽しんでほしいと思っています。

そして、その向き合い方が探究する心や科学の芽を育て、これからの皆さんの歩みにヒントを与えてくれるものと思います。

今回は、多くの先生方の科学教育に関する研究も助成を受けられました。先生方の科学教育への熱意にも大いに期待しております。

結びに、審査に当たられました新林選考委員長をはじめ選考委員の皆様、そして、日ごろから子どもたちの研究を支えてくださっている先生方、保護者の皆様、関係各位に感謝を申し上げます。

本日は、おめでとうございます。